

2022年9月期 第1四半期決算 WEB 会議 Q&A (2022年1月31日開催)

シミックホールディングス株式会社

Q.通期業績見通しにおけるワクチン案件とそれ以外の内訳はどうか。

⇒上方修正はほぼワクチン要因であり、Q1 及び Q2 で見通している案件を織り込んでいる。

Q.CDMO 事業においてジェネリック品質問題の影響はどうか。

⇒受託生産の引き合いがある。既存の生産品は早期対応が可能であるが、新規品目の生産には一定の時間を要するため、FY22 より FY23 への業績貢献になる。

Q.足利注射剤棟の大型案件が本格的に業績貢献するのはいつか。

⇒下期稼働となるため、本格的な業績寄与は FY23 となる。

Q.CDMO 事業の EBITDA が対前年同期で低下した理由は何か。

⇒価格調整等により前期が高い水準であった。今期は計画通り順調に進捗している。

Q.前期のセグメントベース (CRO、CDMO、CSO) で受注残と受注残高はどうだったか。

⇒各セグメント (旧) はいずれも順調であった。

Q.オミクロンの流行により、受注消化の遅れは発生するか

⇒現時点でオミクロンの影響は受けていない。

Q.ワクチン接種のプラス効果は、Q1、Q2 いずれが大きいか。

⇒Q2 は Q1 とほぼ同じくらいの影響を見込む。

Q.子供への接種が承認されたが、ワクチン接種支援業務が今期にわたり続く可能性はあるか。

⇒可能性はあると思うので、具体的にになった段階で見通しに反映させていく。案件獲得に向けた営業活動を進める。

Q.ワクチン接種は短期的との考えもあるが、自治体とのリレーション構築につながったものと思う。今後のビジネスの発展はどうか。

⇒ご指摘のとおり、ワクチン接種を機にできたリレーションを次に活かすよう取り組んでいる。例えば、羊蹄山麓7町村とは、コロナワクチン接種のみならず、地域医療について harmo の活用を含めた相談を進めている。

Q.CRO 事業の臨床の受注環境について、回復の割合はどうか。

⇒ワクチンは市販後の案件が多く、単年度ではなく継続的な業務が見込まれる。
他の臨床試験の引き合いが増加する一方、リソース確保の問題があるため、受注のタイミングを検討しつつ案件を獲得していく。